

発達障害のある人の地域での自立を考える

講演会

発達障害のある人の ライフステージからみた育ちと支援

講師 山梨県立こころの発達総合支援センター所長 本田 秀夫氏

平成25年12月
成城ホールにて

臨床のなかで、小さい時から支援を受けている人たちと、大きくなってから支援につながった人たちとでは何か違うと考えるようになりまし

た。我々精神科医から見ると、見逃されて後々手遅れになりやすいのは「目に見えない異常」です。一見すると他の人と同じようにふるまっているのに、他の人が考えないようなことを内面で考えている。目に見えないから分かりにくく気にならない。成人でひきこもっている発達障害の



人たちの子ども時代の特徴を分析すると、他の人たちに比べ行動の異常が目立ちにくかったそうです。小さいときに何の異常もないと言われていた方が、大人になった時に深刻な引きこもりになるリスクがあることを知っておくのは大事だと思います。

こだわり保存の法則

ここからは社会のなかで一番問題が深刻になりやすい、自閉症スペクトラムを中心にお話をしたいと思

います。自閉症スペクトラムの特徴は、臨機応変な対人関係が苦手で、微妙なコミュニケーションのずれを残し続けます。そしてこだわりとして、本能的に自分の関心ややり方、ペースの維持を最優先させたいということがあります。

こだわりをどう認識してどう取り扱うかは、実は支援者の一つの関門です。知っておくべきことの1つは【認知が発達するこだわりも発達

定感を持つことです。

ソーシャルスキルとは、協調性ではなくルールを守ること、そして他の人に相談できる力です。自分の力の限界を超えたことを人に相談をする習慣が、小さい時から身につけていると、いろんなことに対応できます。つい「そのくらい自分でやりなさい」と突き放すとなかなか大人に相談しなくなる。人に相談をしながら自分のできることをしっかりやるのが大切です。

また、年齢が小さいうちから現実社会を生きていく感覚を養っておきたい。何かを計画して実行し、試行錯誤してみても、上手くいかなかったら反省して、修正してやり直して

する【こと。かつて理解力が高まる【こと。こだわりが減ると期待されたけどそんなこと全然ない。もう一つは【こだわり保存の法則】です。例えばある時期は道順にこだわっていたけど、しばらくするとそれがなくなり、別のこだわりが出てくるというように、こだわりにかけるエネルギーのトータルな量は一定だと考えています。規則正しい生活習慣とかいい趣味とか、生活にプラスになるこだわりに興味が向くように接すること【で、むしろ一般の人よりきちんとしてた社会人になったりする場合もあるわけ【です。

みんごとつながる

自閉症スペクトラムの人達は、育つペースや大人になった時の状態が違います。特有の発達に合わせた育て方を、早くから予測して育てていくことが必要で、その時に、統計学的なデータに基づく発達心理学は【き違えて、ノルマ化された一斉指導

で、達成する。こういうことをいろいろ【なところで経験するのが大事【です【ね。

そして、子どもに教えるべきポイント【はなにかを考えておく必要がある【ります。例えば、大人になったとき【「適切な食事」「身の清潔保持」「金銭感覚と買い物」「通院と服薬」「他人との意思疎通および対人関係」「身のまわりの安全とか、危機の対応」「社会性、例えば銀行での金銭の出し入れや公共施設の利用が一人でも可能【か」といったことを一人暮らし【できる【ようになるか【という【こと【です。

分かりやすい提示と合意

自閉症スペクトラムの人は、人の言うことを聞くというカルチャー【はなく、彼らにとって理にかなって【い【ればやる気になる。だから、彼ら【と合意が結ぶるか【どうか【が大事【にな【ります。

こちらが命令するの【もいけ【ない【し、一【方的な要求をこちらが追認【する【のでは間違えた受容【という【名の【放任【になる。一【番の【ポイント【は、【呈示【は大人から【すること【です。子ども【が【よしやろう【という【気持ち【になら【な【ければ、その【合意【はなり【た【たない。今【この【タイミング【で【こ【う【いう【提案【をし【たら【子ども【が【やる【気【になる【だ【ら【う【と【見【抜【いて、それを提案【する【こと【を【習

本田秀夫氏プロフィール
東京大学医学部卒業。医学博士。横浜市総合リハビリテーションセンター勤務等を経て、2011年4月より現職。
著書『自閉症スペクトラム 10人に1人が抱える「生きづらさ」の正体』『アスペルガー症候群のある子どものための新キャリア教育：小・中学生のいま、家庭と学校でできること』など。

の中でやると無理があるわけ【です。【みにくいアヒルの子【という【童話【が【ありますが、変なアヒルの子【と思【わ【ず、将来白鳥になるなら初めから白鳥の育て方をすればよい【のです。同【様に、自閉症スペクトラムの大人【に【なると【思【って【育【てる【べき【です。大人【に【な【った【時【に【自閉症スペクトラム【の【特徴【が【残【っ【て【い【て【も【二【次【的【な【問【題【が【少【な【け【れ【ば、特有の社会参加への道【はある【かも【し【れ【ない。【そ【う【す【る【と【二【次【的【な【問【題【を【予【防【す【る【方【が【重【要【だ【と【思【う【ん【です。

意欲のエネルギーを蓄える

私の臨床的な印象ですけれども、発達障害の人は物心がつくのは遅く、思春期くらいです。暗中模索で周りが見えていない世界で生きていく時間が長い。でも物心がついてからは、真面目さが際立ってきます。言【つ【こと【と【やる【こと【が【一【貫【し【信【頼【で【きる。【理【念【と【して【の【正義【感【、【思【い【や【り【を【も【て【る。

慣として持つ必要があるわけ【です。【子ども【の【ニーズ【を【大人【が【汲【み、【そ【れ【を【わ【か【り【や【す【く【呈【示【し【て、【子【ども【が【それ【に【対【し【て【合【意【す【る。【こ【れ【を【小【さい【時【か【ら【丁寧【に【やる【こ【と【に【よ【り、【結【果【と【して【大人【と【の【信【頼【関【係【を【身【に【つ【ける。【そ【う【し【て【少【し【づ【づ【社【会【ル【ール【や【マナー【を【教【え【て【い【き、【大人【に【な【った【とき【自【分【で【自【分【を【構【造【化【出【来【る【よ【う【に【なる【こ【と【が【一【定【の【目【標【だ【と【思【い【ます。

本人の話に耳を傾ける

最後に成人期の話ですが、実は発達障害の人達はなかなか自分のことをわかってもらえない【と【思【っ【て【い【る【人【が【多【い【ん【です【ね。【自【分【が【良【い【と【思【っ【て【い【る【も【の【を【「【あ【あ、【良【い【ね【」【と【か【「【なる【ほど【」【と【い【う【ふ【う【に【自【分【の【話【に【耳【を【傾【け【て【く【れ【る【人【に【も【の【す【ご【く【信【頼【を【置【き【ま【す。

大人の発達障害の人達の支援では、自分をよく知る、自分の問題を【知【り、誰【か【に【相【談【を【す【る【と【い【う【構【え【を【作【る。【こ【こ【に【も【の【す【ご【く【時【間【を【掛【けて【く【だ【さ【い。【そ【し【て【支【援【者【も、【う【まく【こ【と【が【運【ば【ない【と【思【っ【たら、【や【っ【ぱ【り【自【分【の【問【題【が【何【か【を【整【理【し【て【く【れ【る【相【手【を【探【し【て【い【た【だ【け【ら【ば【と【思【い【ま【す。【(【)【(【)

紙面の都合により、抜粋してご紹介しました。

社会で必要な力をつける

社会に出ていくときに一番大事な力は自律スキルとソーシャルスキル【です。【自律【とは、自【分【を【よ【く【知【り、自【分【の【で【き【る【こ【と【は【や【ら【ない。【自【分【の【で【き【ない【こ【と【は【や【ら【ない。【自【分【の【で【き【る【こ【と【に【自【信【を【持【つ。【つ【ま【り【自【己【肯

